

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を实践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		30

事業所番号	4672900158
法人名	医療法人 誠心会
事業所名	グループホーム あったかハウス東市来
訪問調査日	平成 20 年 6 月 18 日
評価確定日	平成 20 年 7 月 15 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月25日

【評価実施概要】

事業所番号	4672900158		
法人名	医療法人 誠心会		
事業所名	グループホーム あったかハウス東市来		
所在地 (電話番号)	鹿児島県日置市東市来町長里880番地15 (電話) 099 - 274 - 7255		
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成20年6月18日	評価確定日	平成20年7月15日

【情報提供票より】20年3月31日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13 年 4 月 8 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 13 人, 非常勤	人, 常勤換算 13人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	重量鉄骨	造り
	1階建て	1階 ~ 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	16,720 円	その他の経費(月額)	(管理費)11,100円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(30,000 円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	800 円	

(4)利用者の概要(3月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	10 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2			
年齢	平均 81 歳	最低 71 歳	最高 98 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 誠心会 ゆのもと記念病院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

旧国道沿いの住宅街にひときは目を引く外壁を桃色に染めたホームが、「あったかハウス東市来」である。近くには運営母体である医療法人があり、24時間医師と連絡できる体制が整っており、利用者と家族が安心して過ごせるホームである。職員は利用者のペースにあわせ「ゆっくり ゆったり けれどもしっかり」を念頭において生活支援をしている。特に食事前の嚥下体操や手洗い後の消毒など徹底している。また、音楽療法を取り入れ週一回音楽の先生を招いて、大正琴、キーボード、太鼓などを使い一緒に歌ったり、演奏したりと利用者が楽しみながらいきいきとした時を過ごせる場面を提供している。家族的で近所の方々も気軽に立ち寄ってくれる、利用者の笑顔あふれる「あったかハウス」である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>1市町村との連携は、行事等への参加を呼びかけることで参加してもらえるようになった。2家族等への報告は、職員の異動についての報告を年一回開かれる家族会において報告している。3災害対策については、地域の方も参加していただいて消防訓練を行っている。前回の要改善点については職員会議で話し合い改善にむけた取り組みがなされているが、話し合いも一回で終わり、その記録も残されていないので、継続した取り組みと記録を残されることを希望します。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>2週間ほどかけて各ユニットごとに職員で話し合い最後に管理者と一緒にまとめ、作り上げている。管理者と職員は自己評価の大切さと必要性を理解しており、ケアのありかたを見直す良い機会と捕らえて自己評価に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>民生委員、公民館長、老人会長、家族代表、市役所職員、法人代表、職員などが参加して2ヶ月に1回行われている。事業所での利用者の様子や現状報告、行事報告などをおこなっている。公民館長から地域の行事予定の情報を得ることで利用者と一緒に参加することができたり、民生委員から婦人部の方を紹介していただき、ボランティアで踊りをしてもらったり、地域との交流が広がってきている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>利用者の日頃の様子などを写した写真やビデオを面会時に見てもらい家族に感想をもらったり、家族の意見、苦情についても面会時に個別に対応し、何でも話してもらえるような雰囲気作りを心がけている。意見や要望があった時にはすぐに話し合いサービスに反映させている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会には加入していないが、敬老会に参加したり、近所の方が野菜をもってきてくれたりと交流している。小学生がボランティアで紙芝居や笛の合奏をしてくれたり、中学生の職場体験も受け入れている</p>

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念をもとに、地域密着型サービスの意義を理解し職員全員で「あったか地域であったか交流みんなで作るうあったかの輪」という内容の理念を付け加えている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については、毎朝申し送り時に唱和している。職員は利用者と同じ目線にたち、一人ひとりのペースに合わせた支援を心がけ、「ゆっくり、ゆったり、けれどもしっかり」と理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会には加入していないが、近隣の方々が散歩の途中に立ち寄ってくれたり、婦人部の方々がボランティアで踊りを披露してくれたりと交流している。また、小、中学生の体験学習も受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義については、管理者と職員は十分理解しており、1、2週間かけてユニット別に職員同士でミーティング時に話し合い最後は管理者と一緒にまとめあげている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回行われている。出席者は運営者、公民館長、民生委員、老人会、市職員、家族代表であり、事業所の行事報告や利用者の状況報告等行っている。地域の行事予定の情報を得ることで、行事に利用者と共に参加したりしている。		運営推進会議は2ヶ月に1回行われており充実していることが窺えるが、出席者の対象をもう少し広げ外部からの幅広い人材の意見交換の場となるようにすることで、よりサービス向上に活かせることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所側から行事の参加を呼びかけて参加してもらったり、あったか新聞を届けたりと働きかけを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時にはホーム内の日々の様子を写した写真やビデオを見てもらったり、年2回発行している「あったか便り」を送付している。金銭の預かりをしている利用者は少ないが、面会時には出納簿をみてもらい確認印をもらっている。職員の異動等については、年1回ある家族会で報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は玄関に設置しており、苦情についても相談窓口があることを伝えている。家族会や面会時には何でも言ってもらえるような雰囲気作りを心がけている。		家族からの意見、要望が出されることが少なく、現状に満足している様子が窺えるが、事業所側として家族の意見を引き出す工夫をされることでよりサービスの質の向上に繋がることを期待します。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は毎日、朝と夕それぞれのユニットにあいさつをしており馴染みの関係作りを心がけている。職員の離職に伴う引継ぎ期間は1週間程度であるが、利用者のケアについては、統一して行うようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、職員が交代で参加しており、内容についてはミーティングやレポートなどで報告し職員全員が共有している。内部研修については、年間計画が立てられ、月1回勉強会が行われている。ケアについて気づいたことは職員同士でもその場で確認するということが行われている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、ブロック毎の勉強会や他の事業所への訪問などを行っている。母体法人が運営する7つのホームがあり、その勉強会や交流も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前は家族と共に見学に来てもらい、話の好きな利用者の隣で一緒にお茶を飲みながら雰囲気を知ってもらうようにしている。入居後も家族や今まで過ごしていた所の近所のかたに来ていただくなど、安心感をもってもらえるように支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者の生活歴を把握しており、これまでの経験を活かし野菜作り、お菓子作りを教えて頂いたり、生け花や書道をして貰い得意分野での力を発揮してもらえるような場面作りをしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者一人ひとりの状態を把握し、思いや希望、できることをアセスメントしており、それに添った支援を行っている。耳の不自由な方については、家族からの意見や意向も取り入れながら支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員の気づきや利用者の状態は、個々のケア記録に記載されており、毎月1回、職員全員でモニタリングや意見交換を行っている。家族の希望や意見は直接サービス書に書いて貰っている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>職員は利用者一人ひとりの状態をチェックリストにあげ、毎日チェックしている。状態が変化した際には、検討見直しを行い、状態が安定している人でも6ヶ月に1回見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	周1回の看護師の訪問や往診の24時間体制などが整っており、負担となる受診や入院の回避となっている。家族の要望があれば、病院受診の送迎もしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が納得して母体病院の診察を受け入所しているが、利用前からのかかりつけ医の医療を受けられるように、家族と協力し通院介助を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「看取り介護についての同意書」を作成している。終末期に対する対応指針を定め、家族、主治医、看護師を交え話し合いを行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	秘密保持、個人情報保護法については、入職時に勉強している。一人ひとりに合わせた言葉使いや対応を心がけており、プライバシーを損ねるような声かけをしないよう、全職員周知している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて、生け花をする人にはお花を選んでもらい活けてもらったり、編み物をする人、新聞を毎日読む人、日めくりを毎日する人など、心身の状況や日々の状態に合わせて名前を呼びながら声かけして、個別性のある支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者全員が座れる大きなテーブルを囲み和やかに談笑しながら食事を楽しんでいる。利用者は力量に応じて、おしぼりをたたんだり、テーブルを拭いたり、料理の下ごしらえ、盛り付けなどを手伝っている。年に2、3回程度、外食も楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日入りたい時に入れるようになっている。拒む利用者については、無理じいすることなく更衣のみ行ったりしているが、2日以上は入らないときは、声かけする職員を替えてみたり、家族に温泉に連れて行ってもらったりしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	おしぼりたたみやテーブル拭き、洗濯物を畳んだりと日常生活の中で役割をもち、ラッキョウづけや梅干づくり、ネットボ作りや杵と臼を借りてもち付きを行うなど、楽しみ事の場面作りを行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望や気分に応じて季節を肌で感じてもらい心身の活性につながるように日常的に散歩やドライブ等にでかけたり、花見やふるさと訪問、他のホームへお茶を飲みに行ったりと、戸外に出かけられるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間、防犯の為に施錠する以外は、自由に出入りできるようになっている。外出傾向にある方は把握しており、外に出たときは、必ずつきそうようにしている。また、地域との連携体制もできている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の下に年に2回火災消防訓練を行っている。心肺蘇生法やAEDの使い方の講習も行っている。地域の協力体制については、自治会をお願いしているところであり、同敷地内にある法人の職員寮の職員も協力してもらえ体制が出来ている。備蓄については、母体病院が近いのでそこで準備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1200～1300kcal、水分量は1300mlを目安に毎日チェック表に記録し、職員は情報を共有している。献立については、管理栄養士に見てもらいアドバイスを受けている。利用者の状態に応じて、柔らかくしたり、食べやすい大きさにするなど支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビングには、全員が座れる大きなテーブルが置いてあり、台所からは居室を見渡せるようになっている。居室の前の所々にソファがおいてあり、思い思いの場所でくつろげるスペースを確保している。壁には、小学生と交流した時の楽しい様子の写真が飾られている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのタンスとベット以外は、利用者の使い慣れたものが置かれている。位牌や写真、手作りカレンダー、自分で作った書道の作品などがあり、居心地よく暮らせるように工夫している。		